

調査

第7回 「ふくしま景気ウォッチャー調査」

— 2017年4月調査 —

当研究所では毎年4月、10月の年2回、街角の景況感調査として「ふくしま景気ウォッチャー調査」を実施しており、今般、通算7回目の調査を実施しました。

内閣府が全国規模で毎月実施している景気ウォッチャー調査は、小売や飲食などの「家計動向関連」、製造や運輸などの「企業動向関連」、人材派遣などの「雇用関連」の3分野に分けて集計しています。

一方、当研究所の調査は、「家計動向関連」にシフトし、一般消費者に身近に接し、県内経済の最前線に従事する方に身の回りの消費行動や景気の現状・先行きについて判断していただいています。今回は、115名の方にご回答いただきました。全体的に判断指数がやや良化したものの、依然として指数の水準が低いことが特徴です。

＜調査結果の要約＞

◇消費動向の現状判断（半年前と比較した現在）

- ・現状判断 DI^(※) は全体で42.3（前回調査比+3.8ポイント）であり、横ばいを示す50を下回った。
- ・業種別では、住宅関連53.9（同+10.2ポイント）が2期ぶりに50を上回り上昇局面、飲食関連50.0（同+5.7ポイント）が横ばいと判断された。

◇消費動向の先行き判断（現在と比較した半年後）

- ・先行き判断 DI は全体で42.4（前回調査比+2.2ポイント）となり、横ばいを示す50を下回り下降局面と判断された。
- ・業種別では現状判断とは異なり、いずれの業種も50を下回った。

◇景気動向の現状判断（半年前と比較した現在）

- ・現状判断 DI は全体で39.6（前回調査比+3.4ポイント）となり、やや良化するも判断指数は低い水準にとどまった。
- ・業種別ではいずれの業種も50を下回っており、特にサービス関連32.6（同△0.5ポイント）が2期連続30台前半で推移した。

◇景気動向の先行き判断（現在と比較した半年後）

- ・先行き判断 DI は全体で40.0（前回調査比+2.3ポイント）であり、景気動向を厳しく見通しているウォッチャーが多かった。

◇主な業種の指数判断（コンビニ、旅館・ホテル、タクシー）

- ・旅館・ホテルの消費動向の先行き判断 DI が49.9（前回調査比+19.1ポイント）と横ばいに近い水準まで上昇した。
- ・タクシーの消費動向の現状判断 DI は29.2（同+6.3ポイント）と前回調査に続き20台での推移となった。

(※) DI 値（判断指数）については、次ページ「調査要領5」を参照。

○調査要領

1. 調査対象者

県内の景気の動きを実態面から敏感に観察できる立場の方142名

2. 回収状況

有効回答数 115件 回答者の業種・地域は6・7のとおり

回収率 81.0%

3. 調査時期

2017年4月実施

(年2回、4月と10月に実施)

4. 調査内容

(1) 半年前と比較した現在の消費動向

(2) (1)の判断理由

(3) 現在と比較した半年後の消費動向

(4) (3)の判断理由

(5) 半年前と比較した現在の景気動向

(6) 現在と比較した半年後の景気動向

※(1)、(3)、(5)、(6)は5段階評価による回答とする。

※ここでは、消費動向は日々の仕事を通じて接する顧客の様子から把握できる購買状況、景気動向は回答者の身の回りの経済情勢のことを指す。

5. 判断指数 (DI 値) の算出方法

5段階の回答区分に、それぞれ下図のとおり点数を与え、それらに各回答区分の構成比 (%) を乗じて DI 値 (Diffusion Index) を算出する。

DI 値は50を判断の目安としており、50を上回っていれば上昇局面、50を下回っていれば下降局面と判断する。

回答区分	良くなった 良くなる	やや良くなった やや良くなる	変わらない	やや悪くなった やや悪くなる	悪くなった 悪くなる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

6. 調査回答者の所属分野・業種

分 野	調査対象者の代表的な業種
小 売 関 連 (44名)	一般小売店 スーパーマーケット コンビニエンスストア など
飲 食 関 連 (22名)	料理店 酒場 など
サービス関連 (36名)	旅館・ホテル タクシー 娯楽 理美容 など
住 宅 関 連 (13名)	住宅・不動産販売

7. 対象地域の区分

地 域 (調査回答者数)	市 郡 名
県 北 (29名)	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡、安達郡
県 中 (27名)	郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡、石川郡、田村郡
県 南 (14名)	白河市、西白河郡、東白川郡
会津・南会津 (19名)	会津若松市、喜多方市、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、南会津郡
相 双 (7名)	南相馬市、相馬市、双葉郡、相馬郡
い わ き (19名)	いわき市

1. 消費動向の現状判断

～やや回復の兆しをみせるも

現在の消費動向は依然として下降局面～

ウォッチャー（アンケート調査回答者）が日々の仕事を通じて接する顧客の様子から把握できる消費動向（購買状況）について尋ねた。

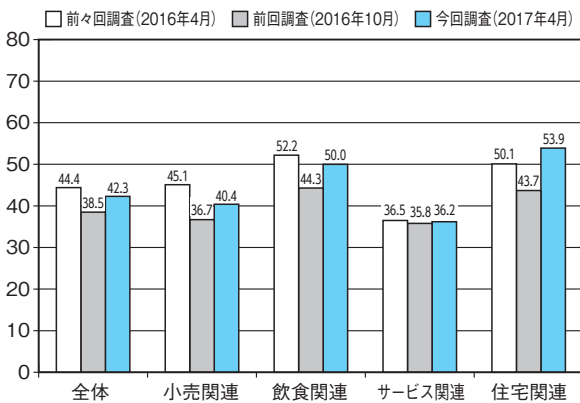
半年前と比較した現在の消費動向を示す現状判断指数は42.3（前回調査比+3.8ポイント）と前回調査の30台から40台に回復したものの、横ばいを示す50を4期連続で下回った（図表1）。

前回調査に比べ、「良くなった」または「やや良くなった」とプラス判断したウォッチャーの割合が前回調査比+7.1ポイントと増加するとともに、「やや悪くなった」または「悪くなった」とマイナス判断したウォッチャーの割合が同△11.7ポイントと減少している。前回調査と比べ消費が下向いていると判断したウォッチャーの割合は減ったものの、「悪くなった」に限れば9.6%と1割近く、厳しい判断をしているウォッチャーが依然として多い（図表2）。

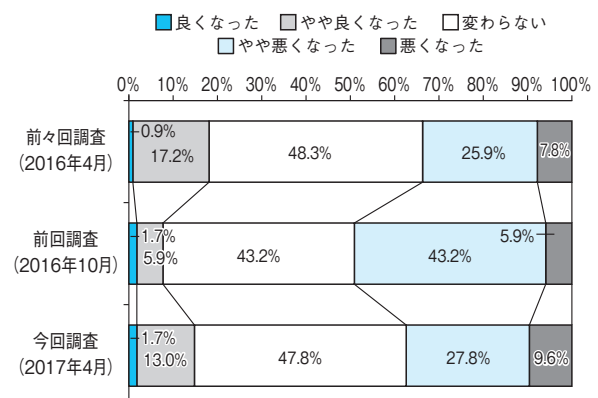
(1) 業種別

前回調査ではいずれの業種も50を下回り下降局面と判断されたが、今回調査では住宅関連53.9（前回調査比+10.2ポイント）が2期ぶりに50を上回り上昇局面、飲食関連は50.0（同+5.7ポイント）と横ばいと

図表1 消費動向の現状判断指数（DI） 業種別



図表2 半年前と比較した現在の消費動向 回答構成比



図表3 業種別の「良くなった」「やや良くなった」とプラス判断した理由（複数回答）

（単位：%）

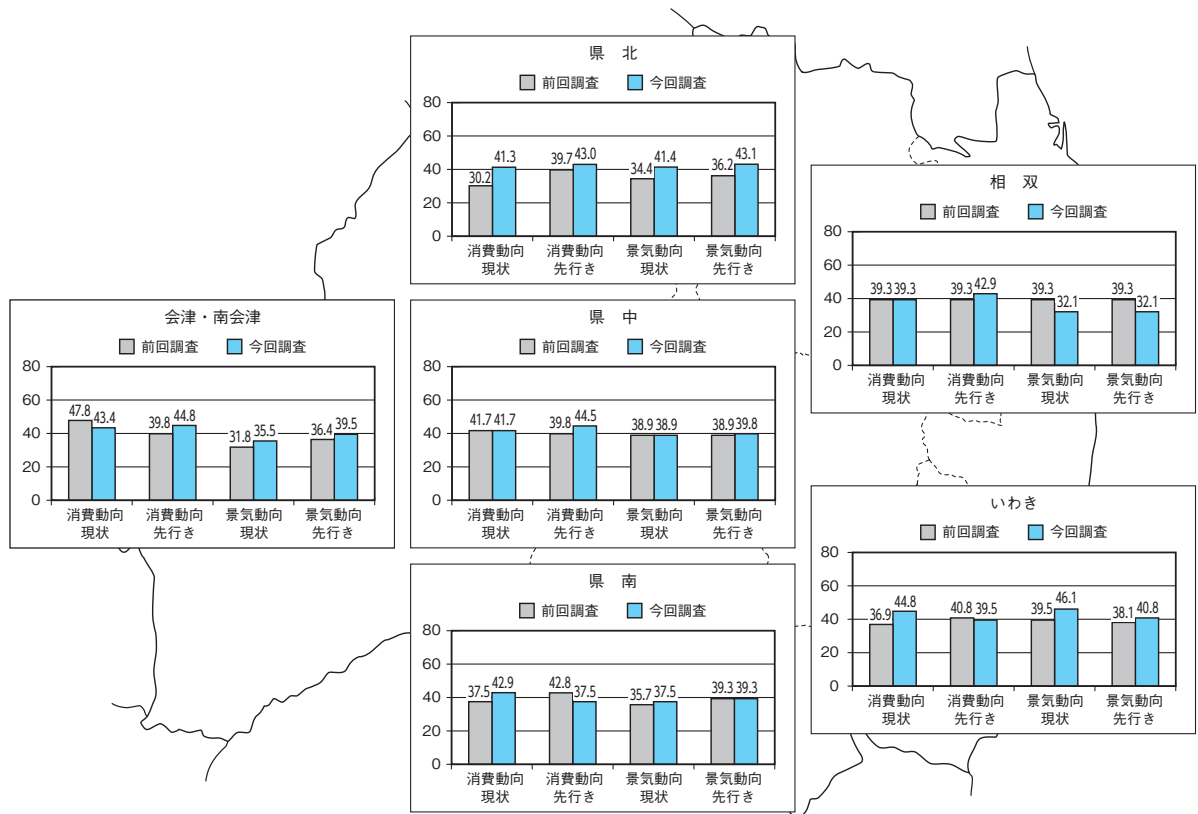
業種名	回答者数 (人)	来店客数の増加	顧客単価の増加	自社または他社の出店・撤退	消費意欲の改善	高価格商品の増加	低価格商品の増加	観光客の増加	避難者の動向	消費税等の税制変更影響	その他
全体	17	70.6	35.3	0.0	35.3	11.8	23.5	5.9	11.8	5.9	0.0
小売関連	5	60.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飲食関連	6	66.7	66.7	0.0	16.7	33.3	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0
サービス関連	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
住宅関連	4	75.0	0.0	0.0	75.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0

図表4 業種別の「悪くなった」「やや悪くなった」とマイナス判断した理由（複数回答）

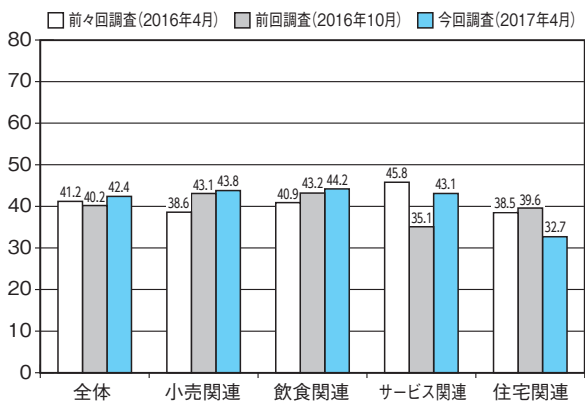
（単位：%）

業種名	回答者数 (人)	来店客数の減少	顧客単価の減少	自社または他社の出店・撤退	消費意欲の悪化	高価格商品の増加	低価格商品の増加	観光客の減少	避難者の動向	消費税等の税制変更影響	その他
全体	43	72.1	30.2	14.0	30.2	0.0	25.6	14.0	39.5	4.7	14.0
小売関連	18	94.4	38.9	16.7	38.9	0.0	22.2	5.6	38.9	0.0	16.7
飲食関連	7	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3
サービス関連	16	62.5	18.8	12.5	25.0	0.0	37.5	31.3	43.8	6.3	12.5
住宅関連	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

図表5 地域別の消費動向・景気動向判断指数 (DI)



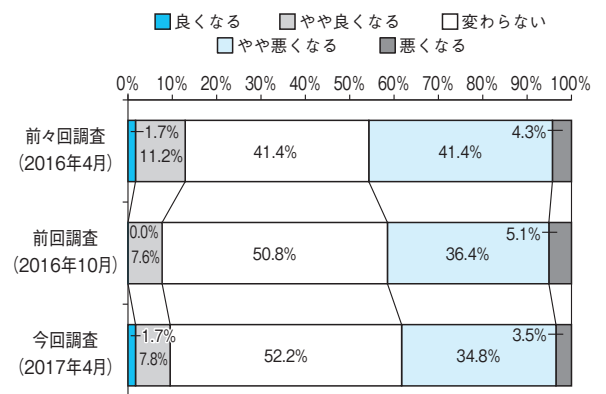
図表6 消費動向の先行き判断指数 (DI) 業種別



判断された。一方、サービス関連は36.2 (同+0.4 点) と3期連続での30台にとどまった (図表1)。

「良くなった」「やや良くなった」とプラス判断した理由としては、全体で「来店客数の増加」70.6%が最も多く、全ての業種においても最も多かった。業種別にみると、住宅関連の「消費意欲の改善」75.0%も多く、避難者の住宅需要が減退した中であっても、住宅に対する需要は根強い。飲食関連では「顧客単価の増加」66.7%も多かつ

図表7 現在と比較した半年後の消費動向 回答構成比



た (図表3)。

一方「悪くなった」「やや悪くなった」とマイナス判断した人は、その理由として、「来店客数の減少」72.1%を最も多く回答にあげており、なかでも、小売関連では94.4%と9割を超えた。「避難者の動向」は39.5%と4割近くに達しており、避難指示が解除され住民帰還が始まっていること、除染が進捗して除染関係者が減っていることが影響しているものとみられる (図表4)。

(2) 地域別

前回調査と同様に、今回はいずれの地域も50を下回り、下降局面であると判断された（図表5）。ただし、会津・南会津を除いた他の地域は前回調査比で増加あるいは不変であり、マイナス判断の中にも、全体として回復の兆しがみえている。

2. 消費動向の先行き判断

～前回調査に比べやや良化するも

現状判断と同様に下降局面と判断された～

現在と比較した半年後の消費動向を示す先行き判断指数は42.4（前回調査比+2.2ポイント）であり、やや良化した。横ばいを示す50を下回り、前回調査に引き続き下降局面と判断された（図表6）。一方、「やや悪くなる」「悪くなる」とマイナス判断したウォッチャーの割合が合わせて38.3%（同△3.2ポイント）と減少するとともに、「良くなる」「やや良くなる」とプラス判断したウォッチャーの割合が前回調査比+1.9ポイントと増加しており、全体として判断指数がやや良化した（図表7）。

(1) 業種別

今回調査では、前回及び前々回調査同様に全業種が50を下回り、下降局面と判断された。小売・飲食関連の2業種はやや増加、サービス関連は

43.1（前回調査比+8.0ポイント）と大きく増加した。一方、住宅関連は32.7（同△6.9ポイント）と下降しており、消費動向の現状判断指数53.9に比べ、先行きが厳しく判断されている（図表6）。

「良くなる」「やや良くなる」とプラス判断した人は、全体でも11名と少数にとどまり、住宅関連ではゼロであった。プラス判断した理由は、「来店客数の増加」がいずれの業種でも最も多かった。サービス関連では「観光客の増加」（60.0%）も多かった（図表8）。

一方、「悪くなる」「やや悪くなる」とマイナス判断した理由は、全体で「来店客数の減少」が56.8%と最も多く、次いで「消費意欲の悪化」と「避難者の動向」がともに38.6%となった。業種別でみると、小売関連では「来店客数の減少」（80.0%）が最も多く、プラス判断した理由「来店客数の増加」（75.0%）といわば「対」になっており、来店客数の増減がウォッチャーの景況判断を大きく左右している。サービス関連では「避難者の動向」（69.2%）が最も多く、避難住民の帰還などによって顧客が減ることが懸念されている（図表9）。

(2) 地域別

全ての地域が50を下回っており、最も高い会津・南会津でも44.8（前回調査比+5.0ポイント）にとど

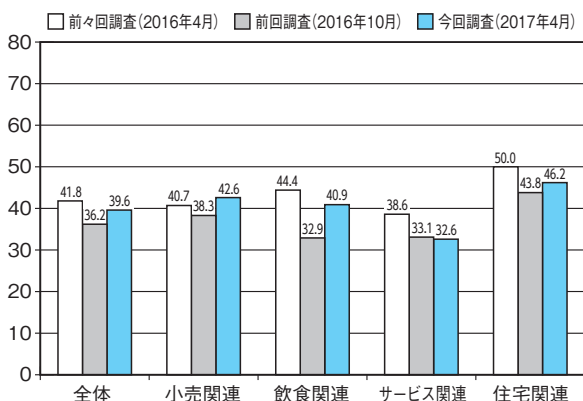
図表8 業種別の「良くなる」「やや良くなる」とプラス判断した理由（複数回答） (単位：%)

業種名	回答者数(人)	来店客数の増加	顧客単価の増加	自社または他社の出店・撤退	消費意欲の改善	高価格商品の増加	低価格商品の増加	観光客の増加	避難者の動向	消費税等の税制変更影響	その他
全 体	11	81.8	27.3	0.0	36.4	0.0	0.0	27.3	0.0	0.0	9.1
小売関連	4	75.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飲食関連	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス関連	5	100.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0
住宅関連	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表9 業種別の「悪くなる」「やや悪くなる」とマイナス判断した理由（複数回答） (単位：%)

業種名	回答者数(人)	来店客数の減少	顧客単価の減少	自社または他社の出店・撤退	消費意欲の悪化	高価格商品の増加	低価格商品の増加	観光客の減少	避難者の動向	消費税等の税制変更影響	その他
全 体	44	56.8	22.7	9.1	38.6	2.3	22.7	6.8	38.6	13.6	15.9
小売関連	15	80.0	33.3	13.3	53.3	0.0	13.3	0.0	26.7	6.7	13.3
飲食関連	8	50.0	12.5	12.5	37.5	12.5	25.0	0.0	25.0	12.5	12.5
サービス関連	13	30.8	15.4	7.7	15.4	0.0	30.8	23.1	69.2	15.4	23.1
住宅関連	8	62.5	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	12.5

図表10 景気動向の現状判断指数 (DI) 業種別



まり、上向いた地域があるものの上昇局面と判断される水準までは至っていない（図表5）。中でも、県南、相双、いわきの3地域ではプラス判断したウォッチャーはいなかった。

3. 景気動向の現状判断

～前回調査よりやや良化するも 判断指数は低い水準にとどまる～

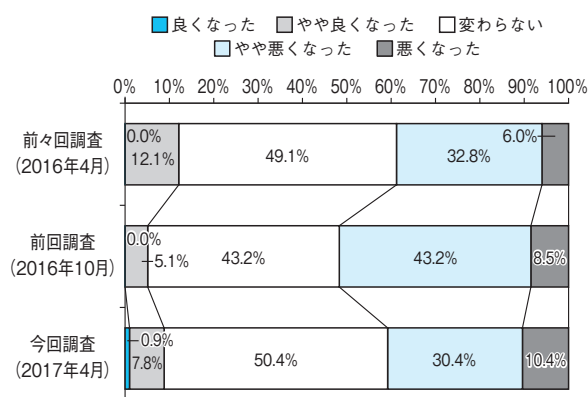
ウォッチャー自身の身の回りの景気（経済情勢）について尋ねた。

半年前と比較した現在の景気動向を示す現状判断指数は39.6（前回調査比+3.4ポイント）とやや改善したが、横ばいを示す50を大きく下回り、下降局面と判断された（図表10）。「良くなった」「やや良くなった」と判断した割合は8.7%（同+3.6ポイント）と増加し、「やや悪くなった」「悪くなった」とマイナス判断した割合が合わせて40.8%（同△10.9ポイント）と減少したことで、全体として前回よりやや良化した。判断指数は低い水準にとどまった（図表11）。

(1) 業種別

今回調査ではいずれの業種も50を下回ったが、住宅関連（46.2）が横ばいを示す50に近い水準であるのに対し、サービス関連（32.6）はプラス判断したウォッチャーが1名だけであり、前回調査同様30台前半となった。サービス関連を除けば前回調査よりも上向いているが、どの業種もプラス判断しているウォッチャーは少なかった（図表10）。

図表11 半年前と比較した現在の景気動向 回答構成比



(2) 地域別

すべての地域が横ばいを示す50を下回っており、最も高いいわきでも46.1（前回調査比+6.6ポイント）と、県内全体的にマイナス判断しているウォッチャーが多かった（図表5）。中でも、相双は「良くなった」「やや良くなった」とプラス判断しているウォッチャーがおらず、復興需要の減退とともに除染など復興関係者が減っていることなどから、景気動向の現状を厳しく判断しているものと思われる。

4. 景気動向の先行き判断

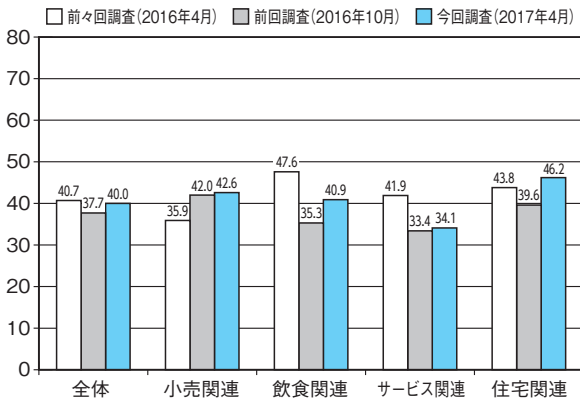
～半年後の景気を下降見通しする ウォッチャーが多い～

現在と比較した半年後の景気動向を示す先行き判断指数は40.0（前回調査比+2.3ポイント）と横ばいを示す50を下回り、下降局面であると判断された（図表12）。「悪くなる」「やや悪くなる」とマイナス判断した割合が合わせて43.5%（同△6.5ポイント）と前回調査に比べ減少し、「やや良くなる」と判断したウォッチャーが9.6%（同+2.0ポイント）とやや増えたことで、判断指数が良化した。しかし、プラス判断が約1割に対し、マイナス判断が約4割おり、景気動向を厳しく見通しているウォッチャーが多かった。また、「良くなる」と判断したウォッチャーは前回調査に引き続きなかった（図表13）。

(1) 業種別

いずれの業種も前回調査比で増加したが、最も

図表12 景気動向の先行き判断指数 (DI) 業種別



高い住宅関連でも46.2（前回調査比+6.6ポイント）といずれの業種も50を下回り、景気動向の先行きが下降局面になると判断された。中でも、サービス関連では半数のウォッチャーがマイナス判断しており、指数が34.1（同+0.7ポイント）と低い水準での推移となった（図表12）。

(2) 地域別

すべての地域で50を下回り下降局面になると判断され、最も高い県北でも43.1（前回調査比+6.9ポイント）にとどまった（図表5）。プラス判断したウォッチャー数は、会津・南会津4名、県北3名、県中2名などそれぞれ少なく、県内全体的に景気動向の先行きは厳しく判断されている。

5. 主な業種の指数判断

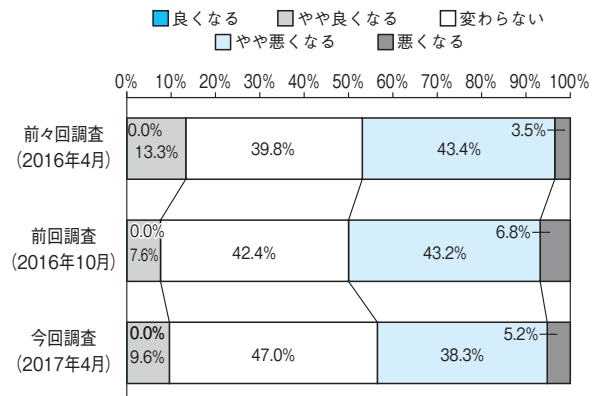
～いずれの業種も消費動向判断指数は引き続き下降局面～

一定数のウォッチャー数があり、また、景気ウォッチャー調査の代表的な業種といわれている「コンビニエンスストア」（以下、コンビニ）「旅館・ホテル」「タクシー」について判断指数をまとめた。

(1) コンビニ

コンビニは、消費動向現状判断指数が36.7（前回調査比△4.3ポイント）と減少し、前回調査に引き続き下降局面となった。マイナス判断した理由としては、「来店客数の減少」が多くあげられた。寄せられた意見の中には、「財布のひもが固い」「復

図表13 現在と比較した半年後の景気動向 回答構成比



興バブルの終わり」などがみられた。消費動向先行き判断指数は、43.3（同+2.2ポイント）となり、前回調査からやや増加したものの、プラス判断しているウォッチャーは少ない（図表14）。

地域別に消費動向判断をみると、現状判断ではマイナス判断があるのは、県北、相双、いわきの各地域、プラス判断とマイナス判断両方あるのは県中、会津・南会津の各地域であった。先行き判断では、プラス判断が県中地域、マイナス判断が県南、相双、いわきの各地域、プラス判断とマイナス判断両方あるのは会津・南会津地域であった。

(2) 旅館・ホテル

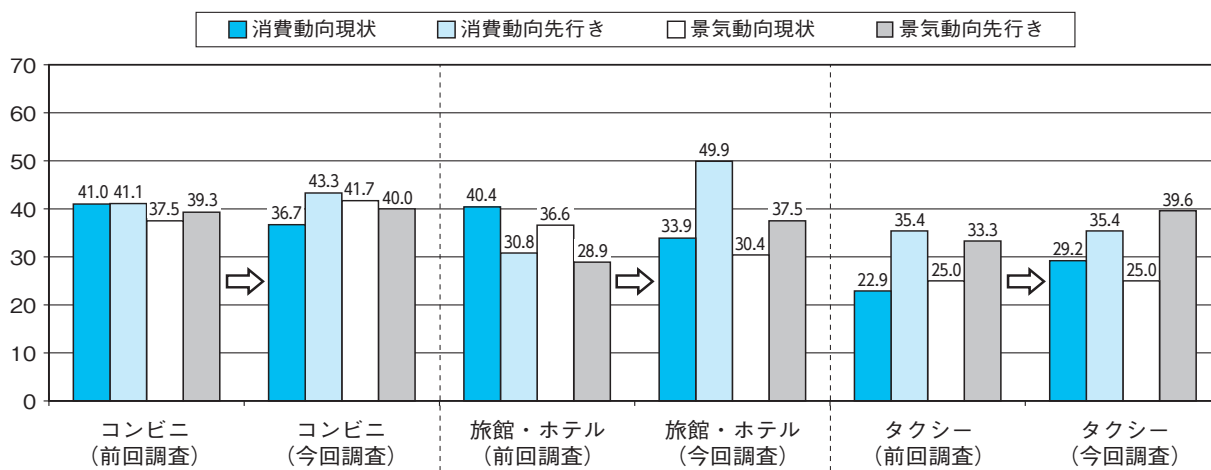
旅館・ホテルは、消費動向現状判断指数が33.9（前回調査比△6.5ポイント）と減少し、前回調査に引き続き下降局面となった。マイナス判断した理由としては、「観光客の減少」が多くあげられた。消費動向先行き判断指数は49.9（同+19.1ポイント）と前回調査に比べ大きく増加し、横ばいに近い水準まで指数が良化した。しかし、回答割合としては「変わらない」と判断しているウォッチャーが多く、プラス判断しているウォッチャーは2名と少ない（図表14）。

地域別に消費動向判断をみると、現状判断では、マイナス判断があるのは、県北、県南、会津の各地域であった。先行き判断では、マイナス判断は県北、県南の各地域、プラス判断とマイナス判断両方あるのは会津・南会津地域であった。

(3) タクシー

タクシーは、消費動向現状判断指数が29.2（前回

図表14 主な業種の判断指数 (DI)



調査比+6.3ポイント)となっており、前回調査に比べ増加したものの、マイナス判断しているウォッチャーが8割近く、判断指数が低い水準となった(図表14)。ウォッチャーから寄せられた意見には、「復興関係者送迎の仕事が終わった」「人手不足で需要に対応できない」といった声が寄せられており、復興需要のピークアウトに伴う経済環境の変化がタクシー業界にも影響している。消費動向先行き判断指数は35.4(同±0ポイント)と現状に比べ高いものの、横ばいの50を大きく下回っており、下降局面と判断されている。

地域別に消費動向判断をみると、現状判断では、マイナス判断は県北、県南、会津・南会津、いわきの各地域、プラス判断とマイナス判断両方あるのは県中地域であった。先行き判断ではプラス判断したのは県中地域、マイナス判断は県北、県南、いわきの各地域、プラス判断とマイナス判断両方あるのは会津・南会津地域であった。

6. おわりに

内閣府の景気ウォッチャー調査(平成29年4月調査)の家計動向関連についてみると、景気の実況判断DIは46.9(前月比+0.7ポイント)、景気の先行き判断DIが47.7(同+0.3ポイント)と発表された。調査時期が内閣府と当研究所で異なっているものの、当研究所調査では現状判断DIが42.3、先行き判

断DIが42.4であり、県内の景気判断は全国に比べ厳しく判断されており、横ばいを示す50を大きく下回り下降局面にあることがわかった。

今回の調査では、数字上は良化してはいるが、「悪くなった」「やや悪くなった」とマイナス判断しているウォッチャーの割合が約4割と、消費動向について厳しく判断していることは変わっていない。前回調査ではウォッチャーの意見の中に、「除染など復興関係者や避難者の減少により来店客数が減っている」という声が複数寄せられたが、今回調査でも同様であった。復興が着々と進む福島県内において、復興需要が大きく減退するとともに、販売やサービスの現場に携わるウォッチャーの景況感にマイナスイメージが及んでいる。今年はDCキャンペーンなど、県内での大きな観光イベントは予定されておらず、観光客を呼び込むインパクトは大きくないが、このような時こそ、これまでの取り組みの成果が問われるのではないだろうか。また、消費者に節約志向がみられるからこそ、来店客数や顧客単価を増やすための創意工夫が求められてくるであろう。

ウォッチャーに身の回りの景気について自由意見をご記入いただいたところ、数多くのご意見をお寄せいただきました。誌面の関係上、一部抜粋してご紹介します(コメントの趣旨が変わらない範囲で一部編集しております)。

(担当：高橋宏幸)

身の回りの景気に関する自由意見 ー街の声ー

業種	地域	自由意見
小売業	県北	お客様の消費動向に売上げが大きく左右される。
小売業	県北	個人の住宅など建設関連の仕事が減っているみたいです。
小売業	県北	人口減少社会の対応策として、若者が仙台など市外へ流出するのを防ぎ、常に街中にある状況を作るべきです。
小売業	県北	当店は、半年間隔での判断が難しく、毎日、月別や行事などによっていろいろ変化しているの で頭を悩ませてしまいます。時代や年齢層の変化によって、当店もどんどん変化しています。 全体的にはお客様の単価低下、和菓子離れなのでしょうかね。
小売業	県北	「酒類の公正な取引の基準」が6月から適用となるが、とても認知度が低く、お客様に受け入 れられるかが心配である。
小売業	県中	春の出費（入学、卒業など）が多いため、夏のボーナス時期まで尾を引く感じがします。入学 時期の出費の多さがとても感じられます。
小売業	県中	個々人の給料については上昇していると思われるが、財布のヒモは固いのではと感じる。
小売業	県中	スタッフを募集しても全然応募がなく、人手不足によるサービスの低下が起きている。運賃の 上昇もコスト増につながっている。
小売業	県中	雇用の売り手市場の波は、主に中小零細企業の雇用不足において深刻で、それ故に経費増大が 加速し、雇用不足と経費増大の悪循環になり始めている。対策としてはさらなるオリジナリ ティの創出や少数精鋭への構え等が求められていくのであろうが、道のりは依然厳しい。
小売業	県南	本年度はわが国の危険度が高くなるのが心配です。米国が北朝鮮へ先制攻撃をした場合、日本が 大惨事になってしまいます。大震災の復興が遅れてしまいます。また原子力発電所が心配です。
小売業	県南	将来の景気が読めないせいか、娯楽や贅沢品などに積極的な消費がされていないように感じる。
小売業	県南	景気が良くなるとの情報が独り歩きしているようで情報と現実との差を感じる。または、都心 と地方の格差なのか。一都集中で結局報道も東京を中心に情報網が形成されている中で地方の 景気がどのようなかをわかってもらえていない。「ベア（ベースアップ）」と毎年言われて いるが地方に毎年ベアが出来る会社がどれくらいあるのか？報道により景気の良さを盛り上げ ようとしているだけの気がする。
小売業	会津・南会津	観光客が減少しているので、年々悪くなりそうです。
小売業	会津・南会津	原発事故の賠償金が昨夏で打ち切りになったことで、多くの事業者の経営が影響を受けそれが消 費意欲の減退につながった。各種の復興関連パブルが縮んでいくにつれ、更なる景気の悪化が 予想される。
小売業	会津・南会津	人口の増加が一番売上につながるとは思いますが、常に「フレンドリー」を大切に再度来店して 頂ける努力と、近くて便利な店づくりを常に目標にし頑張る覚悟です。
小売業	会津・南会津	スポーツ少年団（野球）の人数が減っていて無くなりそうなチームや大会がある。一方、塾へ 通う子供の数は少子化にかかわらず、どんどん増えているように思う。
小売業	相双	震災から7年目になり、復旧・復興も少しずつではありますが目に見える形で進んできている と思います。除染作業も避難解除に向けて少なくなってきましたし、仮設住宅から元の住 居・新住居へ移り新しく生活をされる方々が増えてきました。全体的にまわりの人口は減って きています。
小売業	いわき	人手不足による賃金の上昇やサービスの低下などの影響がなかなか見通せない。
小売業	いわき	除染作業の縮小など、いわき地域独特の好景気要因も徐々に無くなり、現在より良くなる要因 が思いつかない。
小売業	いわき	景気よりも人手不足に困っている。
飲食業	県北	お客様の単価が低くなっていると思う。
飲食業	県北	当社は飲食店の多店舗経営ですが、日によって客数の波が大きく、忙しい日の従業員の確保が 困難です。
飲食業	県北	当店はイタリア料理店です。昨年の秋頃より客単価が4,500円から6,500円に上がりました。高 いコースに良い食材を使用することによりお客様に喜んでいただけるようになりました。45 才～75才の年齢層のお客様が多いのですが皆さん元気で食欲もあります。お客様の飲食店選び は「自分たちが欲求するものと、このお店はあってるか？」としっかり考えて選んでいるの ではないでしょうか。

業種	地域	自由意見
飲食業	県中	震災後、ここ数年間は様々な保護を受けていたが、今後は実質的に自立し、自助努力にて建て直していかなければならないのではないかと思う。
飲食業	県中	今は客単価が下がる傾向にあるように思える。
飲食業	県南	製造業は好調で人手不足だそうです。オリンピックにより一部のところで更に良くなると思います。
飲食業	いわき	あまり良い話を聞かない。見通しが見つからない等の話をよく聞くようになった。
飲食業	いわき	1年前から景気はあまり変わらないと思う。
飲食業	いわき	復興関係の会社は引き上げ始めており、特にホテルは厳しくなると思う。不動産もだいぶ落ち着いてしまったと思う。
サービス業	県北	除染の仕事が無くなり、働いていた方達が無職になり、購入を控えている感じがします。
サービス業	県北	今現在は変わらないのですが、半年先までの見通しはわかりません。2カ月先でも景気の良い悪いはわかりません。不安定な状況です。
サービス業	県北	当社は復興事業を行っていましたが、避難者が地元へ帰還する事になり、除染の仕事も一段落し輸送の仕事も無くなりました。新しい仕事に全力を挙げて全員で取組み努力を重ねています。
サービス業	県北	特に景気に変化はないと考えます。2020年開催の東京五輪までにインバウンドのお客様が安心して来られるように、また、2025年以降も安定して商売が継続できればと考えます。
サービス業	県北	大型店の出店による個人商店の大変さ、農業離れと農協の肥大化、工業の海外への流出、地元若者が定着せず空き家が増えるなど、問題がたくさんあります。
サービス業	県北	住宅除染が完了したため、作業従事者がいなくなった。当社ではあまり影響はないが、業種によって大きな影響が出ると思われます。ところで、日本酒が再びブームになってきたように思います。私のまわりでは福島市内にオープンしたフレンチレストランの食材へのこだわり、調理の素晴らしさがちょっとしたブームになっています。少しお値段は高めですが本物、日常と違った雰囲気、美味しい料理を楽しむ方が増えているようです。
サービス業	県中	サービス業、接客業での人員確保が難しくなっている。
サービス業	県中	従業員を増やす上でネックとなっていた社員寮の部屋が探しやすくなっている。避難者、復興作業従事者が減少している影響かと思う。
サービス業	県中	郡山市内のホテル、結婚式場、葬祭場が増加しており、市場の飽和が懸念されます。
サービス業	県南	わが町では人口が2,000人くらい減少、企業が5社くらい撤退しており、大きな痛手です。
サービス業	県南	道路拡張のため解体、新築などいろいろ活気づいている。
サービス業	会津・南会津	震災から6年以上経ち、震災前の状態に戻らなくとも今は普通だと感じるようになり、これ以上の復興、景気が良くなるとは思えない。県の施策もほとんど無くなり県も諦めたのではないかと思う。
サービス業	会津・南会津	最近の賃上げが良い結果に繋がって来ている。
サービス業	会津・南会津	避難者の帰還に伴い売上の減少が出てきている。人員の不足により需要に対応出来ない時が増え顧客離れに至っている。
サービス業	相双	当社は宿泊業ですが、工事関係の宿泊が減少したのに対し、一般の宿泊の問合せは増加した。
サービス業	いわき	避難者の減少と除染の終了により、売上の減少が見られるようになっている。
住宅・不動産販売	県中	消費税増税や避難者の減少による影響を大きく受けるので、年内は「変わらない」から「やや悪くなる」と考えています。来期以降は特に不透明です。
住宅・不動産販売	県中	除染関係の仕事をしていた会社が、除染がほぼ終了し仕事が無くなっているようだ。その会社は除染した土を掘り起こして運搬する仕事が今後出る様だが、以前の様に忙しくはならないと思われる。
住宅・不動産販売	県南	建売住宅、賃貸物件とも供給過剰で動きが鈍くなっているように感じる。注文住宅での新築及びリフォーム工事を選択する方々でも総額限定での相談が増えている。
住宅・不動産販売	県南	価格1,000万円以下の中古住宅の問合せが多くなった。
住宅・不動産販売	会津・南会津	消費税増税の影響に関して、駆け込み購入のお客様の動きが以前の増税の時より静かな気がします。
住宅・不動産販売	会津・南会津	物価であるとか消費意欲よりも、お客様全体の収入が減っている。かなり年収が低くなっているように思います。